

松江市におけるメディアに関する取り組み

資料 1-1

担当課	項目	令和7年度 of 取組状況	令和 8 年度に向けて
こども政策課	こどもの発達とメディア対策事業	・ こどもの発達とメディア対策事業として「島根の子どもとメディア研究会」に委託し、専門講師派遣による市内幼児教育施設での講演会・研修会を実施している。令和7年度は12月末時点で11回の講演会及び研修会を実施しており、今後7回の実施を予定している。今年度は当初募集で予定としている25回の事業実施に達していなかったため、8月に再募集を行ったが、それでも予定回数に達さず、18回の実施となった。	来年度も引き続き、子どもの発達とメディア対策事業として「島根の子どもとメディア研究会」に委託し、専門講師派遣による市内幼児教育施設での講演会・研修会を実施する。これまで本事業の活用のない施設に活用を促していくことが重要であり、活用に向けたおたよりの配布等の広報活動を行うことで、松江市の幼児教育施設全体のメディアとこどもの育ち等に関する意識の向上を図っていく。
	望ましいメディア接触や親子のふれあいに関する情報提供および啓発	・ 11月に実施した松江市内幼児教育施設職員向けの研修（内容：絵本と読み聞かせ）において、学校司書の方に乳幼児期の絵本の与える影響や絵本の読み聞かせがこどもの心の栄養や親子のふれあいに繋がること等についてお話をしていただいた。	訪問指導や研修を通して、絵本の読み聞かせの重要性や親子のふれあいの大切さ、メディアとの上手なつきあい方等の啓発を進める。
こども家庭支援課	乳幼児健診等を活用した現状把握及び啓発	○集団乳幼児健診を活用し、必要に応じて保健師による個別相談を実施している。 【参考】 ①3歳児が電子機器を「使う」と回答した保護者の割合 《H28》33.9% 《R4》44.7% 《R5》47.7% 《R6》44.6% 《R7.11月末》45.5% ②3歳児がテレビ等の画面を2時間以上見る割合 《H28》19.8 % 《R4》20.6% 《R5》20.6% 《R6》20.4% 《R7.11月末》19.7% ○健診時に、メディアとの付き合い方に関するチラシの配布やポスターの掲示等を行った。	○引き続き、メディアの接触状況に応じて個別に情報提供を行うとともに、健診時に限らず訪問や育児相談等の機会を捉えて啓発を行う。
	ブックスタート事業	○4 か月児健診の案内文と一緒に絵本との触れ合いについてチラシを同封している。また、健診時に絵本の読み聞かせ体験と絵本の配布を行い、スマホではなく絵本に触れながら親子の時間を過ごすことを啓発した。 ○健診時の配布チラシに「スマホに子守をさせないで」（日本小児科医会）や「絵本読み聞かせが脳へ与える影響」の情報を掲載した。	○引き続き、4か月児健診における絵本の読み聞かせ等を通じて、親子の触れ合いやコミュニケーションの大切さを周知啓発する。
	読書や子育てに関する情報発信	○各子育て支援センターにおいて、親子(3歳未満)を対象とした絵本の読みきかせを計116回実施し、延べ2,600人に参加いただいた。 ○乳幼児の保護者に向け、X（ツイッター）やチラシ、母子手帳アプリ（母子モ）等を活用し子育てに関する様々な情報を発信した。	○引き続き、絵本の読み聞かせの機会を拡げるとともに、様々なイベントやアプリ等を活用し、タイムリーな情報発信を行う。
学校教育課	小学校でのメディア学習	○今年度もメディア学習を実施した。小学校2 5 校1 7 9 時間実施（R 6 年度は1 9 7 時間実施）。今年度は6 人の推進員の方に小学校のメディア学習にご協力いただき、授業公開日に合わせた授業など、各校の希望に可能な限り沿うことができた。小学生の電子メディアの所持率が高まる中、様々なトラブルも発生しており、メディア学習についての担任との打合せ時にも相談を受けることがある。実態に合わせて、授業内容を工夫している。	こどもを取り巻くメディアに関する環境は日々進化し、新しい課題が生まれている。従来の教材・指導案の見直しや学年の配当の見直しを行い、メディア学習のあり方を検討したい。その一方で、学習指導要領にもあるように「健康との関りを理解すること」を理解したり、メディア接触をコントロールする力を身につけさせるような授業展開についても検討する。また、GIGAワークブックを活用した授業づくりも行う。
	児童生徒の状況及び学校の取組状況の調査	○7月～8月にかけて「メディアに関する情報交換シート」による調査を行い、1 2 月から1 月にかけて「メディアに関する取組状況調査」を行った。調査結果と対策について各校にフィードバックするとともに、次年度の取組の参考にしている。	調査項目の見直しを図りたい。経年比較が必要な項目と新たに調査が必要な項目を検討し、必要とされる調査を行いたい。
	GIGAワークブックの活用	○現在GIGAワークブックについてはどの学校からも閲覧できるように、全校共有フォルダに保存している。また、文書等で周知を図った。	2026版を最後に新しいものは制作されなくなるが、2026版は自主学習教材の追加や教員向け研修が動画配信になるなど、使いやすいものになる予定なので、届き次第各校に周知する。また、メディア学習の教材にも取り入れていく。
	メディア教育研修会・講演会	○今年度も今度氏を講師として、教職員研修会、保護者向け講演会を行った。（参加者 研修会：R6 48名、R7 52名 講演会：R6 46名、R7 47名）デジタルシティズンシップ教育についての理解を深めるうえで有効であった。さらに今年度は教職員研修会はワークショップ形式で行った。研修後のアンケートによると研修内容を児童生徒にも実践したいという声もあり、全体的に高評価であった。また教職員研修会参加者に学校内での研修内容の周知を依頼した。	参加者の評価は、事後アンケートによると「非常に参考になった」「参考になった」という意見が占めた。参加者の感想からも評価は高かったと感じている。特に生成AIに関する事やこどもが機嫌よくゲームをやめる方法についての感想が多く、関心の高さを感じた。保護者の参加については各校1 名以上としていたが、周知の仕方がうまくいかず保護者の参加は3 6 名にとどまった。案内状をtetoruでの配信にしたり、google formを活用した取りまとめをしたりするなど、周知の仕方を検討したい。
事務局	スマホサミット	○これまで実施している湖東中学校を含めた市内中学校3 校で今年度スマホサミットを実施した。学校教育課と3 校をGoogle meetでつなぎ、各校の取組の発表やテーマについてのディスカッションを行った。	各校にこの取り組みの様子や意義を伝えていく。来年度はこの3 校の取組を継続するとともに、新規に参加したい学校を募る。

